



1. 東側外観
2. コミュニケーションエリア
3. ゲストエントランス



2



3



日建連表彰2022



第63回BCS賞

三栄建設 鉄構事業本部新事務所

選定理由

【選考委員】
伊香賀俊治・篠原聡子・大西正修

かつてものづくりのまちとして栄えた大阪市大正区を、再びものづくりの魅力にあふれた明るい未来のあるまちにしたいとの思いを込めてつくられた、鉄骨ファブリケーターの事務所建築である。建築主は事業拡大に伴い、かつてそこに在った鉄骨加工工場を施設・人材まるごと取得し、工場の稼働が落ち着くのを待って事務所の建替えに取り掛かった。規模が大きくなることで組織間の関係性が希薄になることや、離職率の高さ、多様性の少ない人材採用など、ものづくりの現場で共通にみられる課題があった。

それらへの解決として、新事務棟では、個別の機能領域を廊下や吹抜などの共用部を介してつなぐのではなく、領域同士が直接的につながる空間を志向し、立体ポロノイが採

用された。これにより領域性は保たれ、それらが直接つながっていく空間が展開されており、一つ先の空間のみならず、二つ先三つ先の空間まで高さの変化とともに知覚できる。領域間は、オープンであったり、ガラスで仕切られたり、開口のある鉄製耐震壁で仕切られたりして、関係性に応じたつながりとなっている。緩やかなつながりの心地よさが感じられ、設計者のいう風通しのよい関係性がみてとれる。

外部に面している領域は、ゲストエントランスやコミュニケーションゾーン、食堂などのリラククスゾーンで、執務系の領域は外光にあふれたりラックスゾーンを介して配置されており、直射日光や温熱外乱の影響を受けにくいレイアウトとして執務環境を保っているのも巧みなどころである。

更にこの建築の秀逸なところは、立体ポロノイの境界線を自社の鉄

骨技術でつくり、それらをすべて見せているところにある。立体ポロノイの性格上、水平垂直な交点は建物外周の四隅にしかなく、それ以外の交点はすべて異なる交わり方となっており、それらを約三〇〇φの鋼管で納めている。閉じたポロノイ枠のある節点は鋳鋼による剛接合、ある節点はボルトによるピン接合とするなど使い分け、三次元的にほとんど逃げのない鉄骨工事をデジタル技術とクラフトマンシップを融合させることで成し遂げている。設計者と鉄骨加工・施工者が建築主の強い思いを実現させようと奮闘し合ったことがそのまま表れている。

お昼時になると、工場の従業員も事務所棟の食堂を使う。一人ひとりが自分の下足をきちんと揃えて食堂に向かう光景に遭遇した。自分たちの技術の粋を集めてつくった建物への誇りと愛情を感じるシーンであった。建築主によると、この事務所ができて離職者が減り定着率が向上したこと、生産性が向上したことに加え、新規採用の多様性が著しく向上しているとのこと。

ものづくり産業復活に向けて建築主・設計者・施工者が一丸となつてつくり出した、未来志向のこの新しい建築はBCS賞に相応しい。

三栄建設 鉄構事業本部新事務所 概要

- 所在地 大阪府大阪市大正区南恩加島6-2-21
- 建築主 (株)三栄建設
- 設計者 (株)竹中工務店
- 施工者 (株)竹中工務店
- 竣工日 2020年10月31日

- 敷地面積 95,156㎡
- 建築面積 2,103㎡
- 延床面積 4,710㎡

- 階数 地上3階
- 構造 鉄骨造



詳細や他の写真などは
左記の二次元コードから
Webページに
アクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2022 第63回BCS賞受賞作品》 熊本城特別見学通路／熊本市計画桜町地区第一種市街地再開発事業／GREEN SPRINGS／国立競技場／THE HIRAMATSU京都／三栄建設 鉄構事業本部新事務所／ダイヤゲート池袋／谷口吉郎・吉生記念金沢建築館／東京大学総合図書館／東京都公文書館／長野県立美術館／延岡駅周辺整備プロジェクト／Hareza 池袋／横浜市庁舎／早稲田大学37号館 早稲田アリーナ

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工・環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2022年で63回を数えました。